

市町村におけるひきこもり支援の取組例（北海道札幌市）

居場所「よりどころ」

当事者会・
家族会支援

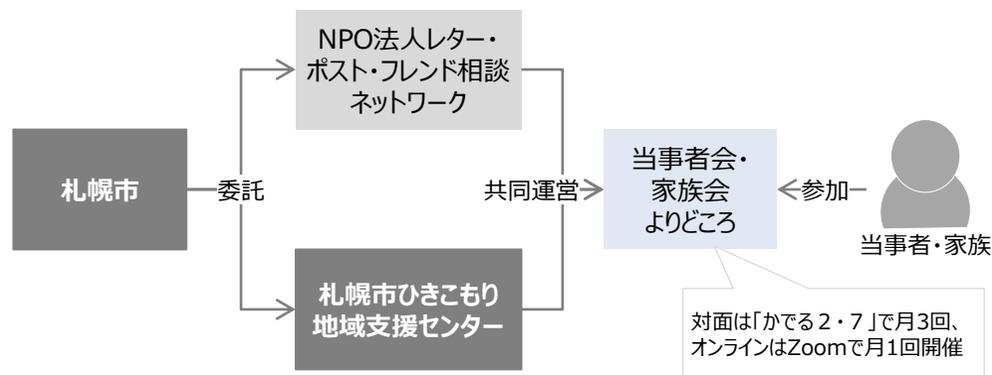
概要

- ひきこもり本人やその家族にとって家庭以外の居場所となり、精神的安定を得られる支え合いの場となることによって、ひきこもり本人等が社会参加に向けて緩やかに動き出すとともに、支援が停滞しているひきこもり本人等が、再度意欲を持てるような場を提供する。
- 「よりどころ」では、ひきこもり当事者とその家族が気軽に集まり、社会参加へのきっかけを提供する「居場所機能」と、相談窓口としての「相談機能」、ピアサポートによって相互に支え合い学び合う「学習機能」を併せ持っている。
- 専門的な支援にも繋がりやすくなり、ピアサポートを通じて来所を継続させるエンパワメントが行われ、家族支援から集団支援までのひきこもり支援を段階的に提供している。

取組の工夫

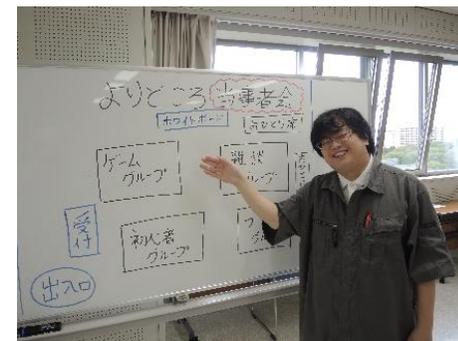
- NPO法人の当事者活動としての「経験的知識」と、ひきこもり地域支援センターがもつ「専門的知識」を結集した新たな「相談機能」「居場所機能」「学習機能」を併せ持つ居場所となっている。
- フラットな関係性を重視し、支援者、ピアスタッフ、ひきこもり当事者・家族の参加者全員が同じ立場であるというポリシーを掲げ、ピアスタッフは名札を着用していない。
- 支援者は参加者として関わりながらも、仲介役として場の雰囲気が参加者全員にとって心地よいものかどうか、その日に扱う話題や小グループに分かれる際のメンバーのマッチングを工夫している。
- 当事者の中で希望がある方、または適任と認められる人にはピアスタッフへの移行をすすめており、これまで3人がピアスタッフとして様々な場面で活躍中である。

体制



基本情報

人口	1,973,395人
面積	1,121.3km ²
世帯数	969,161世帯
高齢化率	27.9%



市町村におけるひきこもり支援の取組例（福岡県筑後市）

家族会「サルビアの会」とひきこもり家族相談会

当事者会・
家族会支援

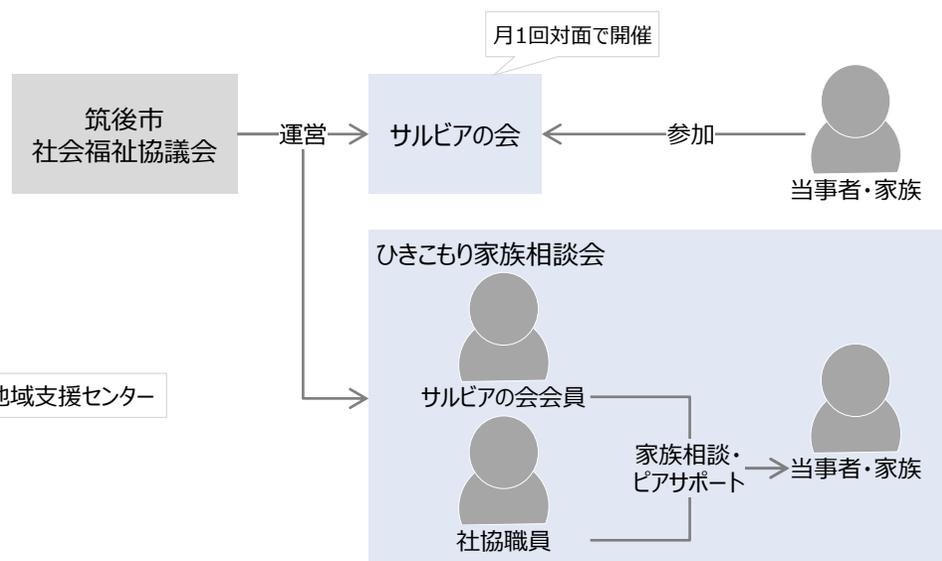
概要

- 「サルビアの会」と筑後市社会福祉協議会（以下、社協）が当事者・家族からの相談を受け、必要に応じて機関の紹介をし、支援に繋げること。
- 月1回の予約制ひきこもり家族相談会で、サルビアの会のメンバーと社協の担当者がピアサポートや支援機関の情報提供を行う。
- 家族会である「サルビアの会」や、地域共助の取組である「もえもんサービス」、コロナ禍でひきこもり当事者が検温業務を行う「検温プロジェクト」（現在は終了）、若者サポーターを養成するための講座として、「若者サポーター養成講座」を実施。

取組の工夫

- 家族からの相談を聞くだけで地域における解決策がない状況を避けるため、各種サービス整備後の2018年から家族相談会を開始。
- 同じ家族の立場の「サルビアの会」メンバーがピアサポーターとして支援。
- 「サルビアの会」の運営は、慣例化してきたタイミングで「若者サポーター養成講座」などを通じてひきこもり勉強会を提供するなどニーズに合わせた企画を行う。
- サルビアの会はプライバシーに配慮し、市外からの相談を歓迎。地域連携強化で近隣市町との顔の見える関係作りを行う。一方、ひきこもり家族相談会は、市内在住者向けとし、居住地の問題で支援ができないという事態を防いでいる。

体制



基本情報

人口	48,827人
面積	41.8km ²
世帯数	18,752世帯
高齢化率	27.4%



都道府県におけるひきこもり支援の取組例（千葉県）

サポーター養成

ひきこもりサポーター養成事業

概要

- ひきこもりサポーターとして活動を希望する方の育成・スキルアップのための養成研修の実施、および市町村に対するひきこもりサポーター派遣事業の情報提供。
- 養成研修の受講者は市町村職員、民間企業・団体の支援者、一般県民などを問わず、ひきこもり支援に関心のある千葉県内の在住・在勤者を対象。研修では、電話・訪問を通してひきこもり当事者を支援するための人材を養成する。
- サポーター登録後は、千葉県内の市町村のうち、ひきこもりサポーター派遣事業を実施している市町村で、ひきこもり当事者・家族からの相談や居場所での活動を行う。相談内容は、外出や他者との関わり方等様々である。

取組の工夫

- 行政職員の障害福祉分野の業務範囲は多岐に渡るものの、定期的な人事異動がある。県が主導で研修を継続するための取組として、地域の精神保健福祉に関する人材との繋がりづくりに力を入れ、人事異動により担当者が変わった後も地域との繋がりを保つ工夫を行っている。
- 研修内容は、基礎知識や家族支援に関する講義や家族会の取組、市町村でのサポーター派遣の取組（すでにひきこもりサポーター派遣事業を実施している習志野市、佐倉市からの報告）や、事例検討やグループワークを実施している。
- 研修は、サポーターを希望する者の他、市町村の事業担当者も受講対象としており、県内全域から参加可能とすることで、参加している市町村職員等、同じくひきこもり当事者の支援にあたる者同士の地域間での情報共有を図る場も兼ねている。

千葉県内の位置関係

- ★・・・実施主体
- ★・・・関係団体等



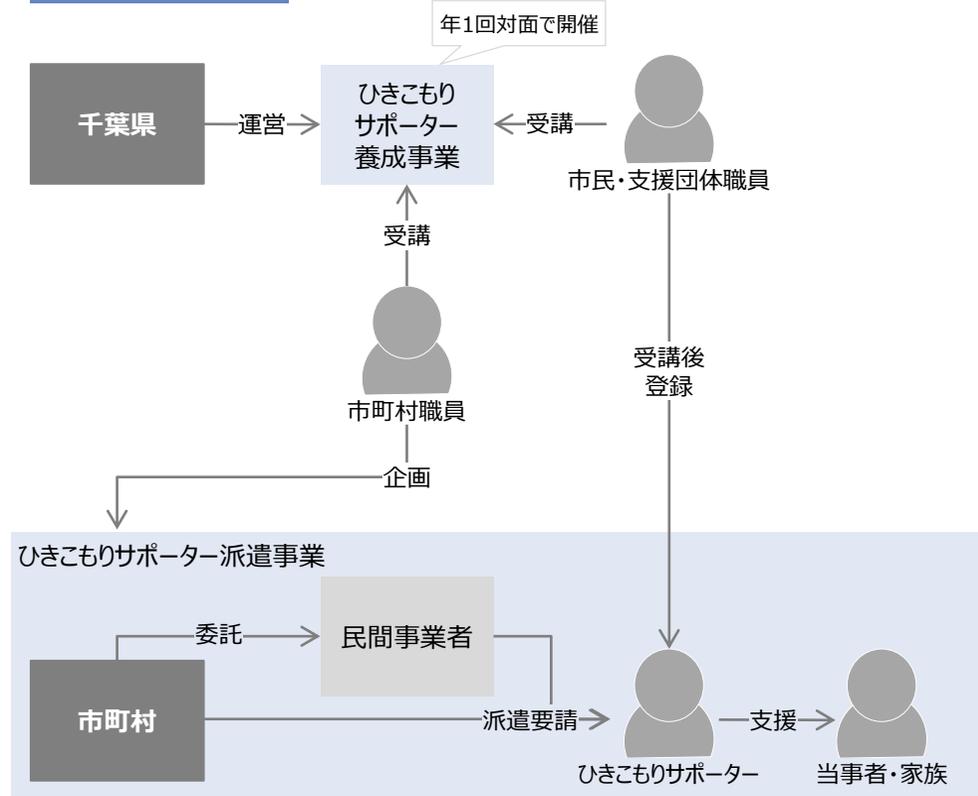
千葉県庁・ひきこもり地域支援センター

県内各地から、千葉市で開催するひきこもりサポーター養成事業へ参加。

基本情報

人口	6,284,480人
面積	5,157.6km ²
世帯数	2,773,840世帯
高齢化率	27.6%

体制



都道府県におけるひきこもり支援の取組例（栃木県）

ひきこもりサポーター養成事業とひきこもり出張相談会

サポーター養成

概要

- 各市町村でひきこもり支援を強化するため、ひきこもりサポーター（以下、サポーター）の養成を実施し、登録完了後は県が実施する出張相談に同席。出張相談後も、ひきこもり当事者と家族を継続的に支援すること。
- 栃木県では、栃木県若年者支援機構が運営する「ポラリスとちぎ」が市町村でのひきこもり出張相談を運営。相談員と養成研修を受けたサポーターが協力して支援を提供。2023年11月時点で154人が登録している。
- ひきこもりサポーターはひきこもり当事者と家族への支援、地域でのネットワーク構築を行い、活動報告や3年ごとのフォローアップ研修も求められている。

取組の工夫

- サポーターにとって出張相談への同席は研修後の活躍の場となり、スキルアップに繋がっている。また完全無償のボランティアとしている自治体もあり、予算が不要のため議会承認などを得るプロセスがないため迅速な意思決定が可能。
- 佐野市：県の出張相談日に研修を受けたサポーターが同席。その後、サポーターが家族の相談に乗り困難事例に対応した実績もある。市のサポーターは月1回の家族支援場所を自主的に運営している。
- 那須町：「ポラリスとちぎ」が作成した研修内容とサポーター証を活用しながら、町社会福祉協議会独自のサポーター養成研修を開始。現在は約13名がひきこもりサポーターとして登録。
- 那須塩原市：社会福祉協議会の職員がひきこもり支援に関心を持ち、サポーター養成研修に参加後、不登校ひきこもりの勉強会「あおぞらのいす」を発足。そのことがきっかけとなり、市の出張相談が始まった。

基本情報

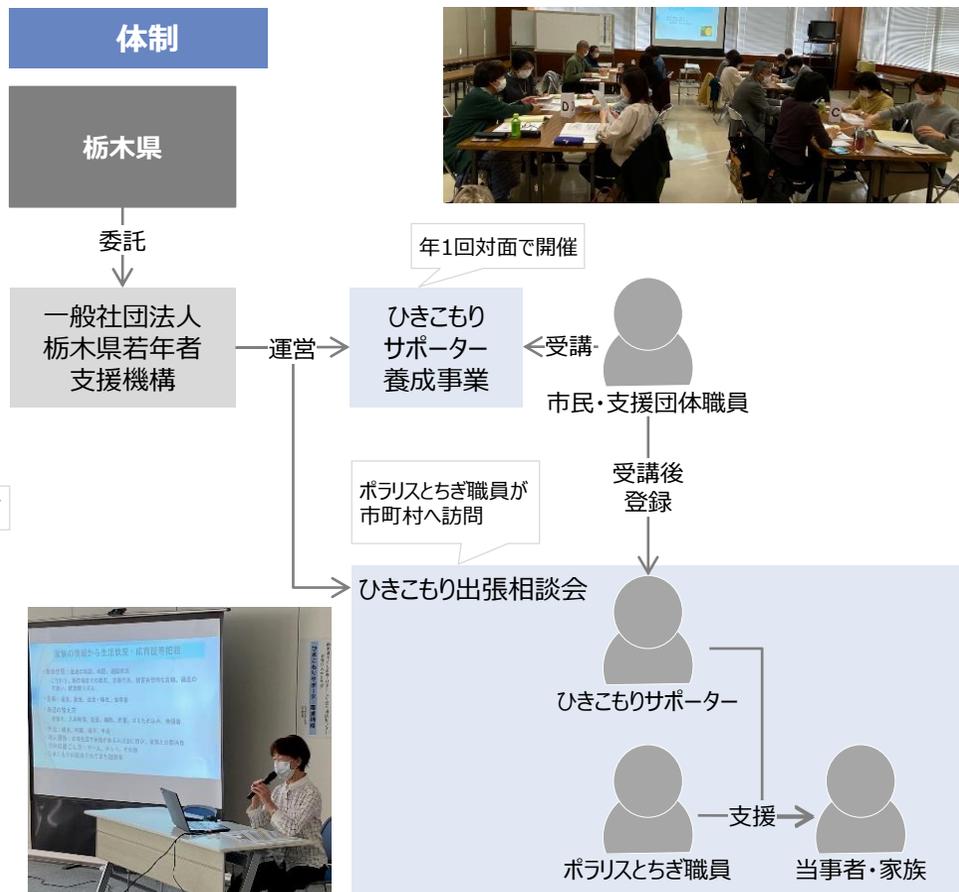
人口	1,933,146人
面積	6,408.1km ²
世帯数	796,923世帯
高齢化率	29.2%

栃木県内の位置関係
 ★・・・実施主体
 ★・・・関係団体等

一般社団法人
 栃木県若年者支援機構・
 栃木県ひきこもり地域支援
 センター



体制



都道府県におけるひきこもり支援の取組例（香川県）

サポーター養成

ひきこもりサポーター養成事業

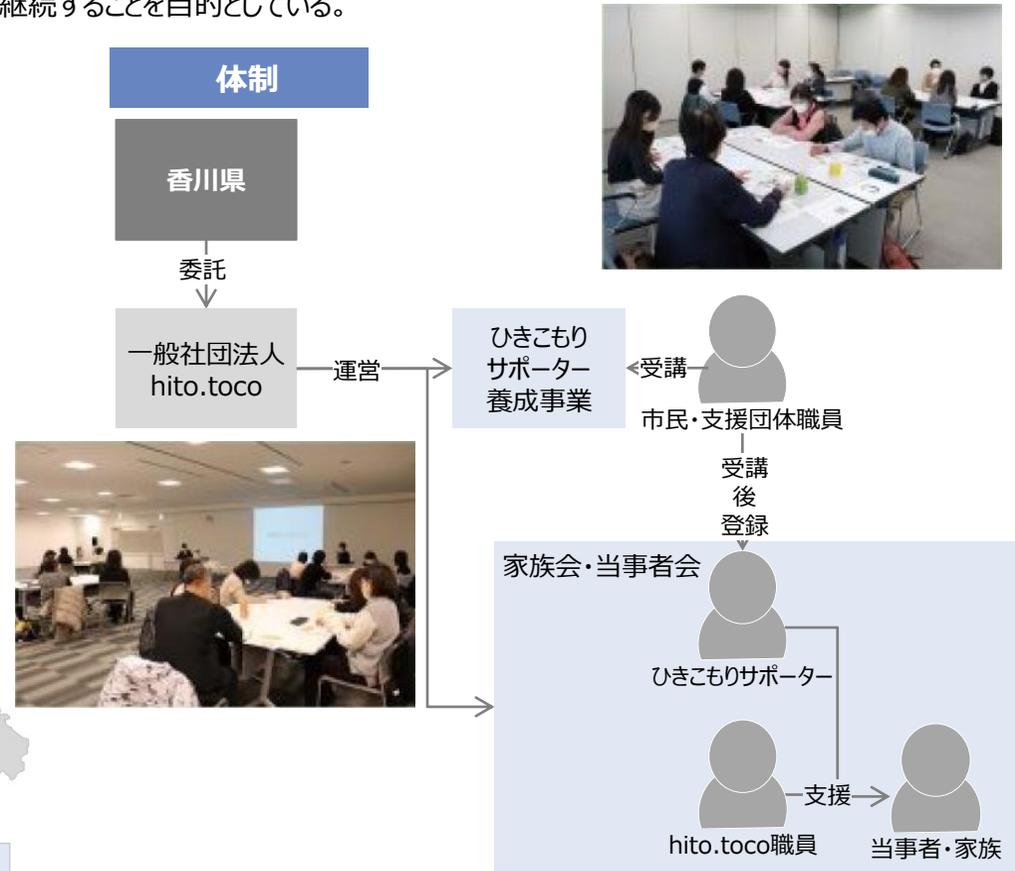
概要

- ひきこもりについての理解を深め、より身近な地域でひきこもりに悩む本人や家族を早期に発見し適切な支援につなぐこと。
- 香川県の事業を受託したhito.tocoでは、県内で活動できる方を対象に、ひきこもりサポーター養成研修（以下、養成研修）とフォローアップ研修を行っている。
- ひきこもりサポーター養成研修：ひきこもり支援に関心のある県内で活動できる方が対象。令和5年度は定員50名に対して30名が参加した。内訳は、福祉専門職（社会福祉協議会の職員、行政の相談担当者のうちひきこもり支援の経験が浅い職員など）が4割、ひきこもり当事者の家族が4割、ひきこもり当事者が2割であった。養成研修を受講すると、サポーターの登録用紙が配布され、希望者はひきこもりサポーターに登録することができる。
- フォローアップ研修：ひきこもりサポーターとして登録した後は、フォローアップ研修に参加することができる。年間4～5回ほど開催しており、毎回15～30名が参加する。ひきこもり支援に関する情報のアップデートを行い、ひきこもりサポーターとして活動を継続することを目的としている。

取組の工夫

- hito.tocoでは、養成研修、フォローアップ研修の実施以外に、家族会・当事者会の運営をしているため、実際の活動を見据えた研修が可能。
- 研修の修了後に、hito.toco等民間団体や自治体主催の家族会・当事者会・居場所等の活動に参加することができる。
- 同じサポーター同士の情報交換の場であるサポーター例会で活動報告を行うなど、研修から活動へのサイクルを回すことができている。

体制



基本情報

人口	950,244人
面積	1,876.8km ²
世帯数	406,985世帯
高齢化率	31.9%

香川県内の位置関係

- ★…実施主体
- ★…関係団体等



hito.tocoは県内全域を対象として活動。

都道府県におけるひきこもり支援の取組例（兵庫県）

オンライン居場所

オンライン活用

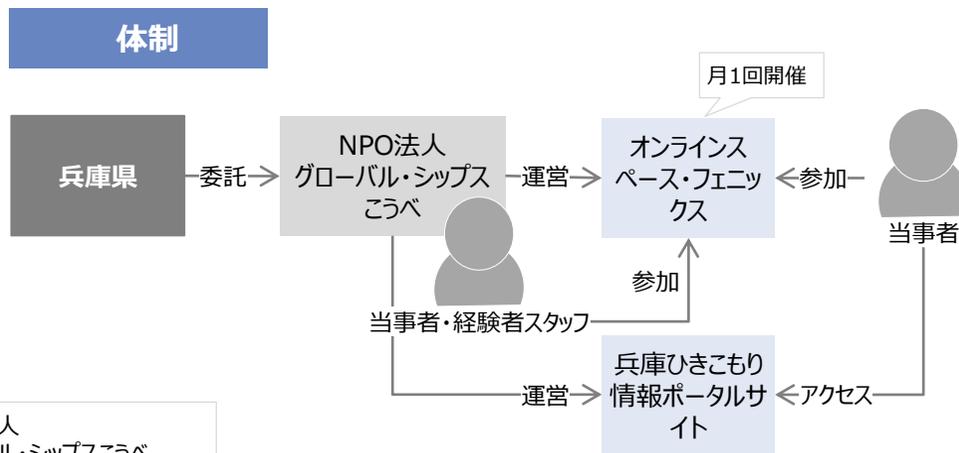
概要

- オンラインスペース・フェニックス（以下、オンライン居場所）は、周囲から孤立しがちなひきこもり当事者が安心して他の当事者と交流したり、オンライン居場所や支援機関、自助会、イベントや情報サイトの情報を得て、ひきこもり当事者が社会と繋がる機会にする。
- 兵庫ひきこもり情報ポータルサイト（以下、ポータルサイト）は、当事者や経験者、家族、支援者やメディア関係者が、ひきこもりに関する情報を得て理解を深めるきっかけとすること。
- オンライン居場所：当事者・経験者が参加者をサポートして、自身の経験を基に同じ目線で対等に接する。週末の午後にzoomとoVice（メタバース）を使用して、フリーのトークテーマで交流。参加するひきこもり当事者が音声のみやアバター等の希望に沿った形で参加が可能。
- ポータルサイト：ひきこもり支援に関する情報をまとめて閲覧することができるサイトの運営を実施。兵庫県内の支援機関や当事者会の情報の他、ひきこもりに関する行政の情報を掲載。

取組の工夫

- 当事者の目線に立った場づくりのためオンライン居場所の参加方法は当事者の状況に合わせて選択可能とし、ポータルサイトでは固定の居場所への参加が難しい当事者向けに単発のイベント情報を掲載。
- オンライン居場所では、使うシステムや当事者以外の参加可否、テーマの有無、ルール、開催時間などを検討し、当事者にとって他者との交流の場になるよう工夫をしている。ポータルサイトでは、掲載内容や項目、情報の取集方法などを他のポータルサイトなども参考に検討した。

体制



基本情報

人口	5,465,002人
面積	8,401.0km ²
世帯数	2,402,484世帯
高齢化率	29.3%

兵庫県内の位置関係
 ★…実施主体
 ★…関係団体等

- オンライン居場所の連携機関
- ほっこり縁側ひろば
 - オンライン居場所 いまここ←
 - プラットフォーム0番線
 - クリエイト&コミュニティ MUSUBI
 - Be with
 - 歩歩ねっと～あなたはひとりではない～
 - 里山ICT能開学校上郡駅前校
 - たんばオンラインネットワーク



都道府県におけるひきこもり支援の取組例（福岡県）

オンライン活用

ふくおかバーチャルさぽーとROOM

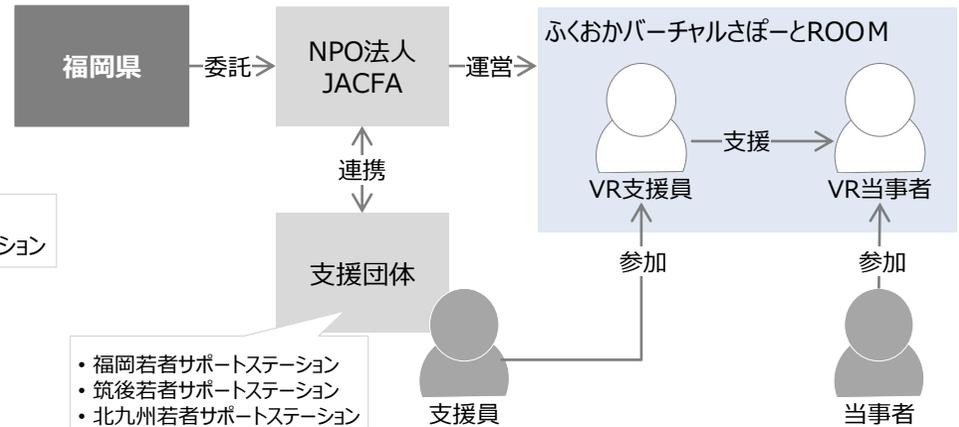
概要

- ひきこもり等の長期無業者を対象に、アバターを活用し、自宅にいながら支援機関につながることで、リアルの世界に踏み出す心理的抵抗感を下げるとともに、バーチャル空間において就労支援を受けることによって、就職に向けより効率的・効果的なステップアップを目指す。
- 専用バーチャル空間へアバターとして入室し、各種支援を受けることができる。バーチャル空間では、居場所、交流会、スキルアッププログラム、就労体験・ジョブトレーニング、個別相談の利用が可能。
- 利用を希望するひきこもり当事者は、導入セミナーに申し込み、アバターの登録方法やバーチャル空間での基本的な操作方法を学ぶことができる。ふくおかバーチャルさぽーとROOMへ登録後にバーチャル空間上の居場所や交流会の利用が可能となり、スキルアッププログラム、就労体験・ジョブトレーニング、個別相談等の就労支援プログラムの利用が可能となる。
- 個別相談への参加を希望する場合は、個別相談に対応している支援機関への登録が必要（支援機関はHP上で随時更新予定）

取組の工夫

- 対面と同水準の支援サービスをバーチャル空間で提供することを目指し、相談者と支援者が対面にならないよう机を配置するなど、実際の相談室と同じようなレイアウト上の工夫を実施。
- バーチャル空間上のコミュニティを育てるために、季節の行事等のイベントを定期的に開催。同じ空間を共有することにより、コミュニケーションが促され、社会体験を得やすくしている。

体制



- 福岡若者サポートステーション
 - 筑後若者サポートステーション
 - 北九州若者サポートステーション
 - 筑豊若者サポートステーション
- (2023年10月時点)



基本情報

人口	5,135,214人
面積	4,986.5km ²
世帯数	2,323,325世帯
高齢化率	28.1%



都道府県におけるひきこもり支援の取組例（秋田県）

職親事業

社会資源活用

概要

- ひきこもり当事者に就労の前段階の体験である、就労体験の機会を提供し、社会適応性の向上、生活リズムの構築等を図り、ひきこもり状態からの回復を進める。
- ひきこもり当事者が社会に参加するきっかけを作るために、就労体験の機会を提供する企業・事業所を県が「職親」として登録し、登録後に就労体験を希望するひきこもり当事者をマッチングし、受け入れを実施する。
- ひきこもり当事者：各地域のひきこもり支援窓口へ相談、事前面談を行ったうえで申し込み手続きをし、マッチングをすると就労体験が可能となる。期間や頻度、作業の内容については職親と相談。就労体験のため、ひきこもり当事者には給与等の支払いはなし。
- 企業・事業所：各地域の窓口へ申込書を提出し、事前訪問調査を受けた後に職親として登録。ひきこもり支援に対する理解があり、本事業の目的に賛同する一般企業や事業所を登録要件としている。県より、就労体験の受け入れ人数1人あたり1500円/日の支払いあり。

取組の工夫

- 受け入れ企業・事業所一覧として掲載しているが、職親を希望する全ての企業・事業所で就労体験が実施されているわけではない。ひきこもり当事者の選択肢を増やすため企業・事業所に丁寧な説明を心掛け協力の継続を呼びかけている。
- CSR活動・地域貢献活動の1つとして魅力を感じ、参画してもらえよう、商工会の繋がりなどを通じて周知や広報を実施し、関係性の構築に努めている。本事業以外の用件で、保健師が個別の企業と関わる際にも周知を行っている。

基本情報

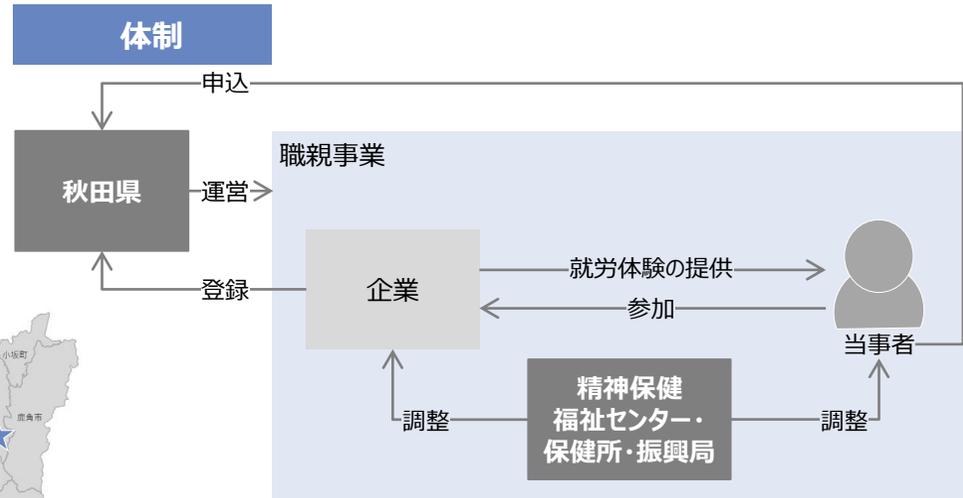
人口	959,502人
面積	11,637.5km ²
世帯数	385,187世帯
高齢化率	37.6%

秋田県内の位置関係

- ★・・・実施主体
- ★・・・関係団体等

秋田県庁・秋田県精神保健福祉センター

各事業所が企業、当事者のとりまとめを実施。
 北秋田地域振興局 大館福祉環境部
 北秋田地域振興局 鷹巣阿仁福祉環境部
 山本地域振興局 福祉環境部
 秋田地域振興局 福祉環境部
 由利地域振興局 福祉環境部
 仙北地域振興局 福祉環境部
 平鹿地域振興局 福祉環境部
 雄勝地域振興局 福祉環境部



社会とのつながり支援（職親）事業とは

あなたの自立を応援します

社会とのつながり支援（職親）事業とは

① 1週間参加（1日～2週間未満）
 ② 短期参加（2週間以上）
 ※短期参加と通常参加を組み合わせることもできます。（①②合わせて240日以内）
 ※1日の体験時間は相談して決定します。

【職親利用の目標】

- 恒常的な生活リズムを確立する
- 働く意欲を養いにつなげる
- 人づかひに慣れる
- 働く楽しさを知る

あなたにあった自立を立てて、一歩を踏み出してみませんか。

1日からの参加も可能です

一歩を踏み出すことに不安を感じている方は、1日からの短期参加もできます。

【参加期間】

参加期間は、希望に応じて次の2つから選択することができます。

① 短期参加（1日～2週間未満）
 ② 通常参加（2週間以上）
 ※短期参加と通常参加を組み合わせることもできます。（①②合わせて240日以内）
 ※1日の体験時間は相談して決定します。

【相談から開始までには】

- まずは最寄りの相談窓口にご相談ください。（窓口は以下のとおりです。）
- 就労体験に先立ち、本人、家族、職親、相談窓口担当者との事前面談を行います。（希望により職親を見学することも可能です。）
- 職親の就業、職種の受入が可能であれば申し込み手続き（書類の提出）をします。
- 就労体験は雇用ではないため給料は支払われません。
- 事業所までの交通費や傷害保険は自己負担となります。

都道府県におけるひきこもり支援の取組例（愛知県）

社会資源活用

ホームフレンド・家庭教育コーディネーター

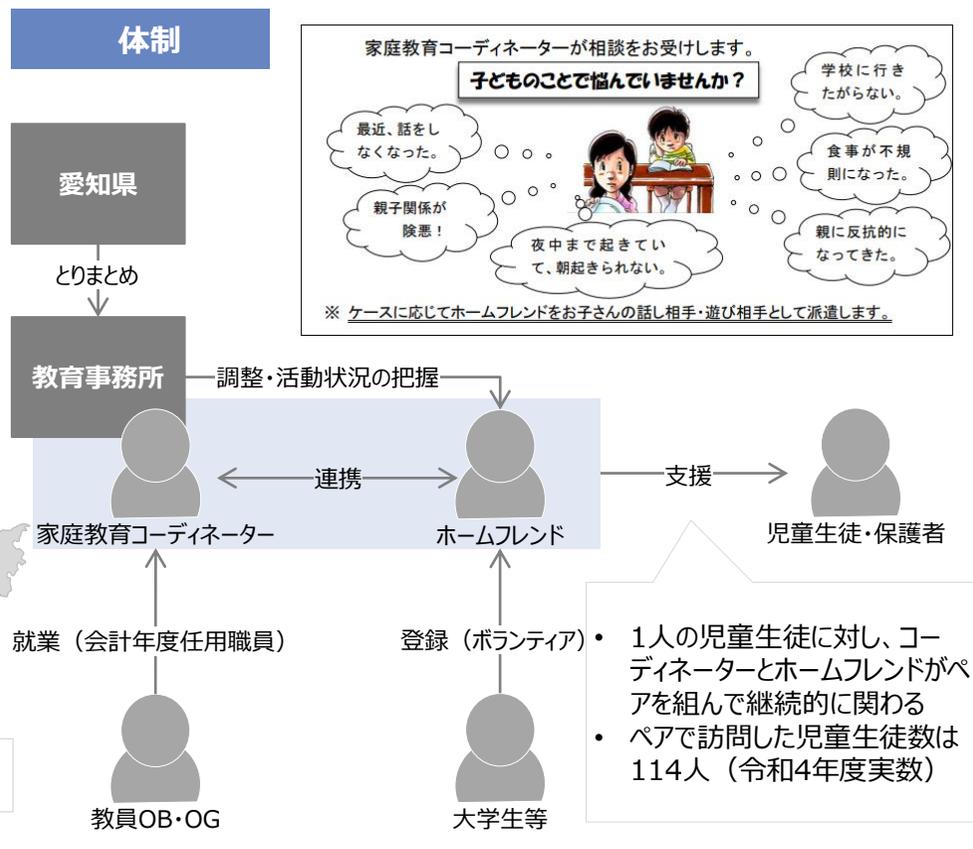
概要

- 家庭教育支援員（以下、ホームフレンド）活動事業：不登校の小・中学生を対象に、大学生のボランティアであるホームフレンドを派遣し、ホームフレンドとの関わりの中で、心の安定、社会的自立、社会との関わり（人と会う、部屋から出るなど小さな一歩）を体験すること。
- 家庭教育相談員設置事業：ひきこもり当事者である小中学生の保護者の支援（家庭教育支援）を行うこと。
- 家庭教育コーディネーターの身分は、あいちの学び推進課の会計年度任用職員であり、不登校などで悩んでいる小中学生とその保護者を対象に家庭訪問・相談活動を実施する。
- ホームフレンドは専門分野への就職を目指す大学生等ボランティア。児童生徒の話し相手・遊び相手として、家庭教育コーディネーターに同行し、家庭訪問を行う。

取組の工夫

- 家庭教育コーディネーターとホームフレンドは固定ペアで児童生徒に関わり、訪問中に関係性を構築する工夫をしている。
- 家庭訪問後には、ホームフレンドは児童生徒との関わり方について、校長経験者である家庭教育コーディネーターとの振り返りの場を設けている。
- 家庭訪問時には、要望に応じて登校への付き添いも行う。家庭教育コーディネーターの学校での勤務経験を活かし、学校を巡回することで不登校児童生徒の情報収集と事業周知を行う。

体制



愛知県内の位置関係

- ★・・・実施主体
- ★・・・関係団体等



基本情報

人口	7,542,415人
面積	5,173.1km ²
世帯数	3,238,301世帯
高齢化率	25.4%

尾張、海部、知多、西三河、東三河、新城設楽の6つの教育事務所・支所があり、ホームフレンド30名とコーディネーター16名が所属している。（令和5年8月時点）

1人の児童生徒に対し、コーディネーターとホームフレンドがペアを組んで継続的に関わるペアで訪問した児童生徒数は114人（令和4年度実数）

都道府県におけるひきこもり支援の取組例（埼玉県）

社会資源活用

地域の資源を活用した伴走型の就労支援

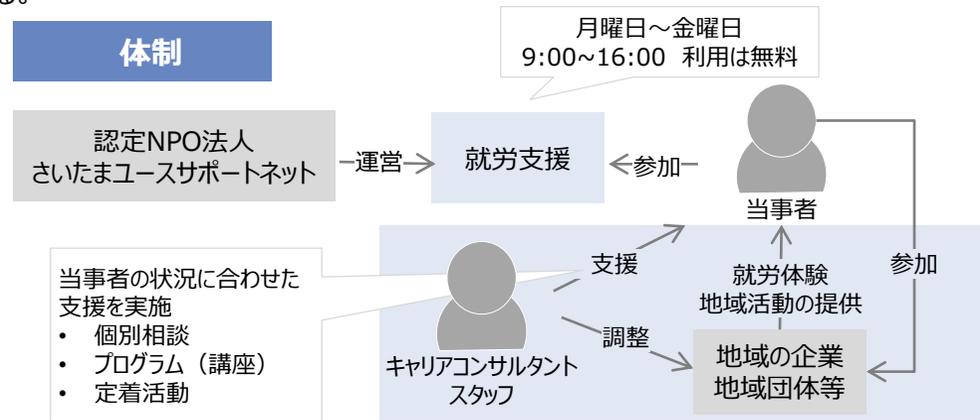
概要

- 若者就労支援の一環として、個別相談、プログラム（講座）の開催、体験活動（地域活動・お仕事体験）、定着支援を行う。
- 個別相談：利用者と家族の相談を対面・電話・オンラインで行う。相談内容は利用者によってさまざまであり、就労に限定しない相談活動を実施する。参加希望者からの問い合わせのあと、初回面談のあとに個別相談が可能となる。本人の興味、希望を引き出しチャレンジしてみたいことを見つけ、その後の交流・体験活動の参加へ繋げることを目的としている。
- プログラム（講座）：先輩利用者の声・企業担当者の話を聞く会、ビジネスマナーに関するプログラムなどを実施している。
- 体験活動（地域活動・お仕事体験）：初回面談と個別相談のあとに①セミナー・利用者間の交流、②企業見学・職場体験、③敷地内や地域での体験活動（例：イベントでの販売体験、会場設営、農作業等の社会活動）、④応募準備・面接練習、などのサポートを提供。
- 定着活動：就労移行支援事業所等の障害福祉サービスにつながる当事者も多いため、いくつかの事業所へ見学の同行をし、適切な事業所を選ぶ上でのサポートを実施している。事業所での活動と並行し来所相談を継続している当事者も複数いる。

取組の工夫

- 地域への正しい知識の普及啓発に向けた働きかけ：2022年度は、家族会や講演会を実施し、身近な家族や地域の方に向けた周知啓発活動を行ってきた。2023年度は、個別の家族相談や、地域イベントに当事者が参加し、活躍する姿を地域の方にも実際に見てもらい、それぞれの若者の様子を知っていただくことを行ってきた。地域の人と若者が一緒にイベントに参加する中で、自然な交流と社会との接点を作っていくことに重点を置いてきた。
- 当事者へ地域と関わることを後押しする働きかけ：単純に一緒に活動することの楽しさを伝えている。スタッフは完璧でない不完全な人間であることも見せつつ、スタッフが楽しそうに活動する。全員一律ではなく、本人の興味がありそうな部分で、ワクワクできることを情報として伝える。

体制



基本情報

人口	7,344,765人
面積	3,797.8km ²
世帯数	3,162,743世帯
高齢化率	27.1%

埼玉県内の位置関係

- ★…実施主体
- ★…関係団体等



個々人の状況に対応した段階的支援

